

# 社会課題解決応援ファンド

愛称：笑顔のかけはし

追加型投信／国内／株式

信託期間：2018年12月26日 から 2050年12月23日 まで 基準日：2024年3月29日

決算日：毎年6月25日および12月25日(休業日の場合翌営業日) 回次コード：3388

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

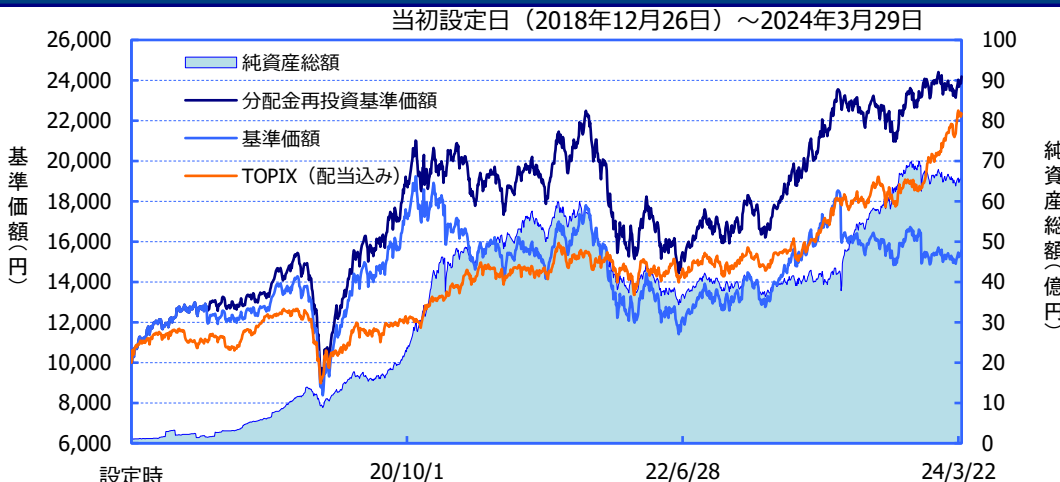
## ＜基準価額・純資産の推移＞

2024年3月29日現在

基準価額	15,559 円
純資産総額	66億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1か月間	+1.8 %	+4.4 %
3か月間	+1.1 %	+18.1 %
6か月間	+6.4 %	+20.5 %
1年間	+22.5 %	+41.3 %
3年間	+27.0 %	+52.5 %
5年間	+97.8 %	+96.2 %
年初来	+1.1 %	+18.1 %
設定来	+141.8 %	+123.5 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。  
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。  
 ※TOPIX(東証株価指数、配当込み)は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考指数として掲載しています。  
 ※グラフ上のTOPIX(配当込み)は、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。  
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

## ＜分配の推移＞

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (19/06)	650円
第2期 (19/12)	350円
第3期 (20/06)	150円
第4期 (20/12)	1,800円
第5期 (21/06)	600円
第6期 (21/12)	10円
第7期 (22/06)	10円
第8期 (22/12)	60円
第9期 (23/06)	1,800円
第10期 (23/12)	1,500円

分配金合計額 設定来：6,930円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決めます。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

## ＜主要な資産の状況＞

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			組入上位10投資テーマ		合計 94.7%
資産	銘柄数	比率	投資テーマ	比率	
国内株式	200	98.6%	働き方改革	23.6%	
国内株式先物	---	---	気候変動対策	20.1%	
不動産投資信託等	---	---	DX(デジタルトランスフォーメーション)	16.2%	
コール・ローン、その他		1.4%	フィジカルインターネット	8.2%	
合計	200	100.0%	サーキュラーエコノミー	6.4%	
<b>株式市場・上場別構成</b>			地方創生	4.8%	
合計98.6%			健康	4.7%	
東証プライム市場		68.6%	国土強靱化	4.3%	
東証スタンダード市場		11.9%	中小企業支援	3.7%	
東証グロース市場		18.2%	女性活躍	2.7%	
地方市場・その他		---			

組入上位10銘柄			合計31.3%
銘柄名	東証33業種名	比率	
フューチャー	情報・通信業	4.2%	
ファイブホールディングス	倉庫・運輸関連業	4.1%	
GREEN EARTH INST	サービス業	3.7%	
プラスアルファ・コンサルティング	情報・通信業	3.2%	
Arent	情報・通信業	3.0%	
トランコム	倉庫・運輸関連業	2.8%	
BIPROGY	情報・通信業	2.8%	
リログループ	サービス業	2.6%	
エン・ジャパン	サービス業	2.4%	
ナレルグループ	サービス業	2.4%	

※組入上位10投資テーマの比率は、株式ポートフォリオに対するものです。※投資テーマ分類は、大和アセットマネジメントの考えるものであり、適宜見直しを行います。また、複数の投資テーマを設定している場合があります。※投資テーマを複数設定している銘柄に関しては、按分し計算しています。

※比率の合計が四捨五入の関係で一致しない場合があります。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

設定・運用：**大和アセットマネジメント**  
 Daiwa Asset Management

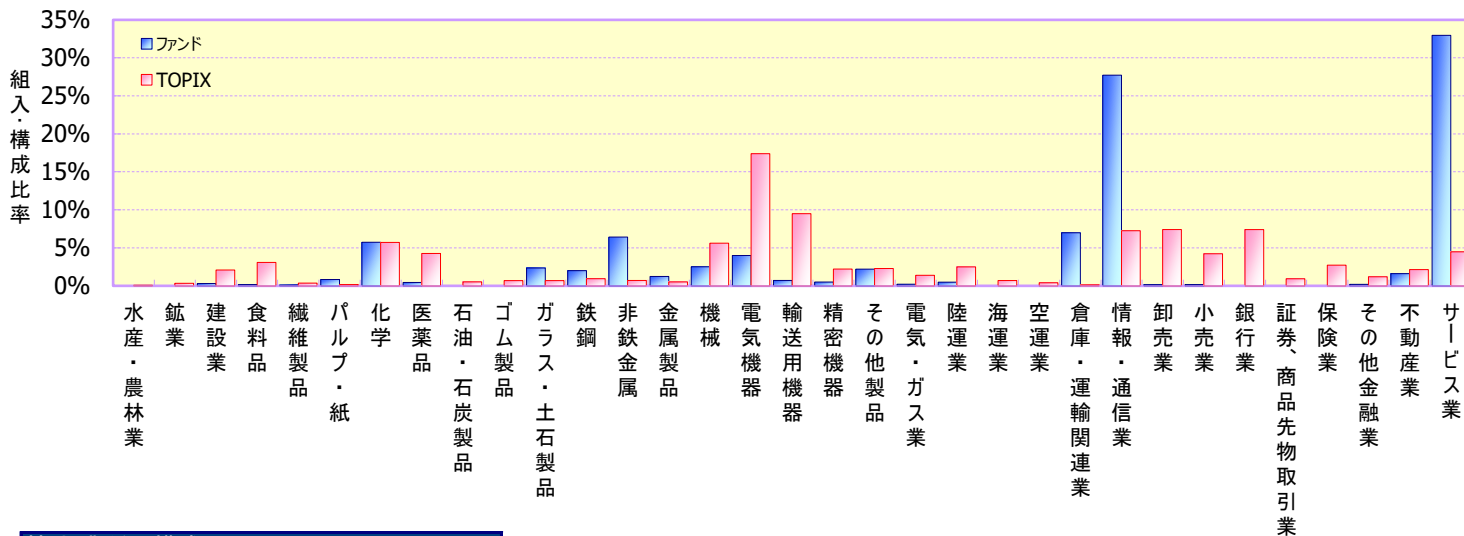
商号等 大和アセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

規模別構成		※比率は、株式ポートフォリオに対するものです。	
	規模	比率	銘柄数
T O P I X	超大型 (TOPIX Core30)	0.7%	6
	大型 (TOPIX Large70)	0.9%	7
	時価総額規模別 中型 (TOPIX Mid400)	16.1%	44
	小型 (TOPIX Small)	59.5%	112
	その他	0.0%	0
東証プライム(除くTOPIX)		0.0%	0
東証スタンダード(除くTOPIX)		4.3%	10
東証グロース(除くTOPIX)		18.4%	21
名証等		0.0%	0
新規上場銘柄等		0.0%	0
合計		100.0%	200

※「その他」は主に東証プライムに所属して間がなく、各規模別指数あるいはTOPIXにまだ振り分けられていない銘柄を表します。

株式ポートフォリオの業種別構成 ※比率は、株式ポートフォリオに対するものです。



株式 業種別構成 合計98.6%

東証33業種名	比率
サービス業	32.5%
情報・通信業	27.3%
倉庫・運輸関連業	6.9%
非鉄金属	6.3%
化学	5.7%
電気機器	3.9%
機械	2.5%
ガラス・土石製品	2.3%
その他製品	2.2%
その他	9.0%

※比率は、純資産総額に対するものです。

※比率の合計が四捨五入の関係で一致しない場合があります。

＜株式市況＞

国内株式市場は上昇しました。上旬は米国の利下げ期待が高まり上昇しましたが、春闘の結果を受け、日銀が3月にもマイナス金利解除などを決定するとの見方が広まり、月半ばにかけて下落しました。実際、18・19日の日銀金融政策決定会合で金融政策の枠組みが見直されましたが、想定内であった上に、「当面、緩和的な金融環境が継続する」との見方から、株価は反発しました。その後は為替介入への警戒感などから下落しました。

＜運用経過＞

売買については、今後の成長性や割安感を考慮してDX（デジタルトランスフォーメーション）関連銘柄、半導体関連銘柄などを買い付けました。一方で、株価上昇により割安感が薄れた銘柄、長期的な成長ストーリーに変化が生じた銘柄、今後の成長鈍化や業績悪化が警戒される銘柄などを売却しました。組入上位銘柄については、大きな変更はありませんでした。

3月の当ファンドの基準価額は、上昇しました。DX（デジタルトランスフォーメーション）関連銘柄、半導体関連銘柄などが上昇したことが主な要因となりました。

＜今後の運用方針＞

国内株式市場は、米国の景気が堅調であること、為替が円安方向で推移していること、日本企業の好調な企業業績の発表などにより底堅く推移しています。今後については、米国の大統領選挙、米国や中国の不動産市況の影響、世界各国の金融政策の動向、急激な利上げを行ったことによる景気悪化への懸念など、相場変動要因が多くあることから、相場や物色動向もボラティリティの高い状況になることを想定しています。このような環境下において、コロナ渦以降の急激なインフレは鈍化傾向にあることから、過去数年程度続いた大型株やバリュー株優位の相場環境は転換点を迎つつあり、今後は、独自要因により成長が期待される企業が評価される展開を想定しています。今後は、決算内容を精査し、長期的な成長期待に変化がなく、割安感のある成長企業を見極めていく方針です。

投資テーマについては、社会が抱える課題の解決が日本株における成長テーマの潮流であると考えており、主に日本政府の政策、新規上場企業を含む企業への取材活動、新聞やインターネットなどのメディア、日常生活での気付きなどから情報収集を行うことにより、社会課題解決に貢献するサステナブル投資テーマを選定します。当面は、日本政府が社会課題解決に向けて取り組んでいる「働き方改革」、「女性活躍」、「障害者雇用促進」、「少子化対策」、「健康」、「地方創生」、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」、「キャッシュレス」、「スマートファクトリー」、「フィジカルインターネット」、「中小企業支援」、「国土強靱化」、「気候変動対策」、「サーキュラーエコノミー」、「みどりの食料システム戦略」、「環境保全」、「犯罪対策」などに注目して投資していく方針です。

ポートフォリオについては、成長市場でビジネスを行う銘柄を中心に構築していく方針です。具体的には、在宅勤務を支援する銘柄、DX（デジタルトランスフォーメーション）関連銘柄、サイバーセキュリティ関連銘柄、EV（電気自動車）関連銘柄、再生可能エネルギー関連銘柄、婚活サービス関連銘柄、子育て支援関連銘柄、事業承継M&A（企業の合併・買収）関連銘柄、建設・医療・物流業界の2024年問題の解決に貢献する銘柄、介護などの高齢化社会で貢献が期待される銘柄などに注目してまいります。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

当ファンドの運用チームがお届けするコラム。

投資先企業の紹介、投資テーマ、運用について現状考えていることなどをお届けし、このコラムを通じて、世の中の様々な社会課題に興味を持って頂くとともに、当運用チームの目線、考えていることなどをご理解いただく一助になれば幸いです。

#### <2024年問題について>

2019年4月に「働き方改革関連法」が施行され、多くの方が残業時間の上限規制の影響を実感したと思います。一方で、運送業、建設業、医師は5年間の猶予期間が設けられていましたが、2024年4月から原則適用されることとなります。「2024年問題」とは、これらの影響により発生するさまざまな問題のことです。例えば、トラックドライバーの残業規制により、運ぶ荷物の量が減り、モノが従来どおり運べなく可能性があります。運送会社は、配送運賃を上げないと売上や利益が減少し、トラックドライバーの賃金も上げることができず、離職を悪化させることになり、さらにトラックドライバーが不足するという悪循環に陥ります。一般消費者が感じる影響としては、配送料が上昇する、宅配サービスが従来よりも長くなる可能性があることなどが代表的な事例でしょう。

当ファンドにおいては、課題が多い、課題が大きいからこそ、課題を解決して成長企業を発掘する機会は多く生まれると考えています。「2024年問題」というピンチをチャンスに変えるような、社会課題を解決する企業に積極的に投資を行っていく方針です。構造的な長期トレンドとしては、2019年4月に働き方改革関連法が施行され、多くの企業が取り組んでいることと同様のことを想定しています。具体的には、ITなどを活用して業務を効率化する、業務プロセスを見直す、BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)などを活用する、人員を増やす、業界全体として効率化するなどです。物流・建設・医療業界において、これらに貢献する企業に注目していきます。

2021年、フィジカルインターネット実現会議が開催されてから、当ファンドでは物流業界が抱える構造的な課題に注目し調査を行ってきました。そして、国土交通省の「総物流施策大綱」も踏まえて、持続可能な物流の実現に向けて「フィジカルインターネット」の投資テーマを設定しました。昨年には、我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議が開催され、「物流革新に向けた政策パッケージ」が公表され物流業界の注目度が高まっていることを感じています。今後のコラムでは、「フィジカルインターネット」の投資テーマについて注目点などを解説していく方針です。

ITの発達により、時間的・空間的・物理的な制約を超える様々なサービスが生まれ、人々の生活は便利になり、社会も効率化が進みました。しかし、どれだけITが発達しても、「物理的なモノを運ぶ」という需要は決してゼロにはなりません。物流業界について調査を行ってきましたが、輸送能力が不足する懸念から「運ぶ価値」について考える機会になりました。普段、何気なく使っているインターネット通販においても、再配達などを行ってしまうと、本当に申し訳なく思ってしまう。一人一人が意識をして再配達を少しでも減らせれば、物流業界にとって大きな手助けになるはず。当コラムを読んで、少しでも再配達を減らそうとする意識を持ってもらえたら嬉しい限りです。

大和アセットマネジメント  
椎名 諒

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

## <上位10銘柄のご紹介>

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

	銘柄名	投資テーマ分類※
	銘柄紹介	
1	<b>フューチャー</b> 「科学・技術を熟知し、経営改革と社会変革に貢献する」という企業理念に基づき、経営戦略とIT戦略の両輪によるコンサルティングサービスなどを提供している企業です。テクノロジーにより顧客のビジネス変革を推進していくことや、SBIホールディングスと取り組んでいる次世代バンキングシステムの導入拡大により、日本社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）に貢献していくことが期待されます。	DX（デジタルトランスフォーメーション）
2	<b>ファイズホールディングス</b> アマゾンなどのECサイトを運営する企業を中心に物流業務を包括的に受託する3PL（サードパーティー・ロジスティクス）サービス、配車プラットフォームを用いた求貨求車とも呼ばれる利用運送事業、自社車両による輸配送などを行っています。長期的に物流の供給力が減少する一方で、EC市場は拡大していく見通しとなっており、持続可能な物流の実現に貢献していくことが期待されます。	フィジカルインターネット
3	<b>Green Earth Institute</b> グリーン化学品やバイオ燃料の開発を行う技術開発型ベンチャーです。食料問題と競合しない非可食バイオマスを原料とすること、増殖非依存型バイオプロセスにより高い生産性と低コストを実現できることが特徴です。「グリーンテクノロジーを育み、地球と共に歩む」をミッションとし、気候変動対策やサーキュラーエコノミーに貢献していくことが期待されます。	気候変動対策、サーキュラーエコノミー
4	<b>プラスアルファ・コンサルティング</b> タレントマネジメントシステム「タレントパレット」などのサービスを提供している企業です。人的資本経営に取り組む企業が増加する中、同社のサービスが普及していくことを期待しています。また、あらゆる分野でデジタル化が進み、情報量が爆発的な増加を続ける中、膨大な情報をテクノロジーで見える化する様々なサービスを提供することにより、日本社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）に貢献していくことが期待されます。	働き方改革、DX（デジタルトランスフォーメーション）
5	<b>Arent</b> 建設業界を中心にDXコンサルティングやシステム開発を行っています。「暗黙知を民主化する」をミッションに、ベテラン職人などに属人化している技術をシステム化し、経験の浅い若手でも同じ仕事ができるようにすることをめざしています。働き方改革関連法が適用される2024年4月以降、建設業界において人手不足が深刻化することが懸念される中、「建設業の2024年問題」の解決に貢献することが期待されます。	DX（デジタルトランスフォーメーション）、国土強靱化
6	<b>トランコム</b> 顧客企業の物流業務を包括的に受託する3PL（サードパーティー・ロジスティクス）サービス、中長距離を中心とした求貨求車サービスなどを行っています。中長期ビジョンとして「”はこぶ”を創造する」を掲げており、持続可能な物流の実現に貢献していくことが期待されます。	フィジカルインターネット
7	<b>BIPROGY</b> ITサービスの大手です。さまざまなサービスやプロダクト、企業、利用者をマッチングできるビジネスエコシステムやプラットフォームを、社会の共有財であるデジタルコモンズとして創造し、提供することにより、持続可能な社会の実現を目指しています。	働き方改革、DX（デジタルトランスフォーメーション）
8	<b>リログループ</b> 福利厚生などのアウトソーシングサービスを行っています。「日本企業が世界で戦うために本業に集中できるよう、本業以外の業務をサポートすること。真のサムライパワーを発揮できるよう、日本企業の世界展開を支援すること。これから始まる日本の大転換をサポートすること。」を使命として掲げ、日本企業の働き方改革に貢献することが期待されます。	働き方改革
9	<b>エン・ジャパン</b> 求人情報サイト「エン転職」、若手ハイキャリアに特化した求人情報サイト「AMBI」、採用支援ツール「engage」などを運営しています。同社は、入社をゴールとするのではなく、求職者と企業の最適なマッチング、入社した人材の企業業績への貢献と仕事人生の充実まで実現するという「入社後活躍」をめざしています。今後、日本の労働人口が減少していく中で、同社が働き方改革に貢献することが期待されます。	働き方改革
10	<b>ナレルグループ</b> 建設業界向けに施工管理技術者を派遣する人材派遣事業などを行っています。働き方改革関連法が適用される2024年4月以降、建設業界において人手不足が深刻化することが懸念される中、「建設業の2024年問題」の解決に貢献することが期待されます。	働き方改革

※投資テーマ分類は、大和アセットマネジメントの考えるものであり、適宜見直しを行います。また、複数の投資テーマを設定している場合があります。

## 《ファンドの目的・特色》

### ファンドの目的

- ・わが国の株式の中から、社会が抱える課題の解決を通じて成長が期待される企業に投資し、信託財産の成長をめざします。

### ファンドの特色

- ・「社会が抱える課題」の中から投資テーマを選定します。
- ・投資テーマに沿った企業の中から徹底したリサーチにより投資魅力の高い銘柄を選定し、ポートフォリオを構築します。
- ・毎年 6 月 25 日および 12 月 25 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益配分方針に基づいて収益の分配を行ないます。

## 《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。 組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 当ファンドは中小型株式に投資することがあります。中小型株式については、株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動するリスクがあり、当ファンドの基準価額に影響する可能性があります。 当ファンドは特定の業種へ偏った投資となる場合があります。その場合は、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## 《ファンドの費用》

### 投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限) <u>3.3%(税抜3.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容	
運用管理費用 (信託報酬)	<u>年率1.573%</u> ( <u>税抜1.43%</u> )	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。	
配 分 (税抜) (注1)	委託会社	年率0.70%	ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価です。
	販売会社	年率0.70%	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
	受託会社	年率0.03%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。	

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 《お申込みメモ》

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額（1 万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額（1 万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 4 営業日目からお支払いします。
申込締切時間	午後 3 時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させること（繰上償還）ができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合</li> <li>・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき</li> <li>・やむを得ない事情が発生したとき</li> </ul>
収益分配	年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。



## ◀ 当資料のお取り扱いにおけるご注意 ▶

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00)

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

社会課題解決応援ファンド（愛称：笑顔のかけはし）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
朝日信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第143号	○			
株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第6号	○			
永和証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第5号	○			
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
島大証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第6号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。